奈良時代の井戸と出土土器　　青野町・菅原町　平城京跡出土

奈良時代（８世紀）

都に住む人々の飲み水は井戸にたよっており、平城京内の調査では井戸が多く発見されます。崩れないように井戸枠（いどわく）として木枠を組んでいます。縦板組（たていたぐみ）のものと横板組（よこいたぐみ）のものがあり、横板組のものには一辺が２ｍをこえるような大規模なものもあります。この井戸は、一辺が７０㎝と小さなものですが、井戸底に小石や木炭を敷くなどていねいにつくられていました。井戸からは完全な形の土器が多く出土します。

横板組の井戸

井戸枠内の様子